

『口訳 古事記』

～奇妙で新しい古典の口訳～

町田 康

+ 『日本の神様と神社の教科書』

『口訳 古事記』の口訳とは、本当にしゃべっている言葉を文章にしたものです。今の時代にわかる言葉で表す口語訳とは少し異なるようです。

古事記は、日本神話を含む歴史書であり、現存する日本最古の書物として知られていますが、原文を読んだことのある人はどのくらいいるのでしょうか。恥ずかしながら私は、読もうと思ったことすらありませんでした。

しかし、鬼才、町田康が古事記を口訳したことを知り、さっそく手にしました。

町田は、小説家でありミュージシャンでもあり、武蔵野大学文学部教授でもあります。2000年に小説『きれぎれ』で第123回芥川賞を受賞し、以後、萩原朔太郎賞（2001年）、川端康成文学賞（2002年）、谷崎潤一郎賞（2005年）、野間文芸賞（2008年）を立て続けに受賞しました。現在は、バンド「汝、我が民に非ズ（なんじわがたみにあらず）」を結成し、ライブ活動を行っていますが、俳優としていくつかの映画作品にも出演しています。まさに、多才かつ鬼才というべき人物です。

古事記には、たくさんの神様が登場します。そのなかで知っているといえば、イザナギノミコト、イザナミノミコト、アマテラスオオミカミ、スサノオノミコトくらいです。そこで、古事記を読むうえで、とても参考になったのが、『日本の神様と神社の教科書』（渋谷申博しげやのぶひろ著）です。私は、この本を片手に、なんとか『口訳 古事記』を読み倒すことができました。よかったら、いっしょに借りて行って欲しいと思います。

とにかく、読み始めるとすぐにわかりますが、はちゃめちゃですさまじい、日本の神話を体験してみるの、いかがでしょうか。

